

年頭所感

新型コロナ感染症が全世界に猛威を振るようになって、足掛け3年が経過しようとしております。その間、多くの人命が失われることとなり、かつ経済は大きく傷つくなか、多くの業界が苦しさに喘ぎつつも英知によって懸命に切り抜けようとしている姿を目の当たりにしました。ここへ来て、落ち着いていた感染者数も増加傾向へと転じて感染症の帰趨は混沌の度を増しており、訪日外国人旅行客からの収益不振など、実体経済への影響には目を離せない状況が続きます。

そのような中、当社では「茗溪拡大ワークショップ」の開催数が累計10回を超え、今年実施する3回分のテーマも発表することが出来ました。また、新たにテーマ毎に少人数で問題点を見つめていく「MeikeiDoktrin」をスタートさせて企業立地編3回を終え、鉄道や航空、観光分野も掘り下げていくことにしています。しかし、説教じみたことをして終わるのではなく、実体経済の改善に僅かながらでも寄与するべく、鉄道会社や航空会社のサポートを行っていくことにしています。

他方、感染症問題がもたらした新たな問題として、未成熟な状態で働き方改革が断行されてしまったことが挙げられます。パラダイムシフトが起きたいま、自ら手を挙げて仕事内容や時間をコミットして実践するのは当然の事となりました。このように、権利と義務はより表裏一体となり、セルフコントロールが重要となっています。また同時に、生産性の向上も重要な要素であるべきですが、生産性の向上については然程議論されないまま、テレワーク他が手段から権利へと変容していく姿も散見されるようになっていきます。

そこで、テクノロジーや利便性からみた働き方から一線を画し、経済効率化や生産性向上、法と経済からみた働き方改革の方策を提案していこうと考えています。加えて、曖昧となっているワーケーションの定義や考え方を整理し、生産性が上がる方策を提言しながら、受け入れ側となる地域へのサポートを行っていきます。

壬寅(みずのえ・とら)の2文字が意味することは、『雪解けの海を渡る虎』。今までの常識が覆され、時代にあった新しい常識が摸索され始める1年になると解することができます。私が尊敬する稲盛翁は「楽観的に構想し、悲観的に計画し、楽観的に実行する」ことが物事を成就させ、思いを現実に変えるのに必要と説いておられます。これに倣いつつ、瞬間、瞬間を完全燃焼する連続が未来につながると信じ、当社が社会からより必要とされるべく活動します。

「初心と基本」、「挑戦」、「稼ぐことに拘る」、この3つのキーワードで2022年をスタートしたいと思います。そして、「商は笑にして勝なり」この言葉を胸に、新たな成長に向けて力強く歩みを進める一年としていきたいと考えています。

2022 年元旦

代表取締役 東堂 英雄